

HPVワクチン接種後に多様な症状を 生じた患者の対応

資料 4



愛知医科大学病院 学際的痛みセンター、運動療育センター
Aichi Medical University Hospital

牛田享宏

- 19歳 F
- 主訴：頭痛、耳鳴り、まぶしさ、立ちくらみ
- 現病歴：
 - 15歳：HPVワクチン接種
接種直後は接種部位周辺の痛みだけであった
6日後から耳鳴り、嘔気、
10日後くらいから頭痛の順で症状が出現
昼間は頭痛、めまいで起床出来ず、夕方から動く
食事もとれなくなりましたので、小児科を受診するが
心の問題であり入院の必要性はないといわれて入
院はしていない
内科、心療内科、他施設の外来など受診し、
起立性調節障害の診断で加療されるも、頭痛続く
ため中学校の方は不登校のまま終了
(小学校からの友人とはSNSで連絡している)
 - 17歳：頭痛増悪。
レディース外来受診

- 既往歴 : n.c.
- 家族歴 : 父親は海外赴任にて長期別居
母親と姉と暮らしている
- 常用薬 : 漢方
- 社会歴 : アルバイトの日は仕事に行くが、
そうでないときはなかなか起きられない
ときがある
- 趣味 : カラオケ

経過（女性外来）

初診 2 か月後：

- 通信制高校に合格
- きちんと起きられる日もある
- 昼はアルバイトを始めた（週3回）
- 頭痛は変わらず。生理痛もひどい、冷や汗が出る
- 寒いと腰痛、頸部、肩関節痛も出る

初診4か月後：

- 朝は起きられないときや頭痛のときも依然としてある
- 起床が遅いため服薬がきちんできていないことがある
- SNSに時間がとられている
- 食べないので痩せたことを本人が喜んでいる
- 運動は積極的にはしていない

当センター初診時

- 現症：

関節を動かしたときの痛みがある。立ちくらみ、めまいが時々ある

- 所見

PDAS（日常生活障害度） 11; HADS（不安5, うつ4）;

PCS（疼痛破局化尺度）25; PSEQ（自己効力感）21

感覚：感覚障害無し

上下肢DTR：特に問題なし

運動：MMT 特に問題なし

血液検査：著明な異常なし

本人「ワクチン接種と体調不良の始まった時期と一致しておりその因果関係が気になっているが、考えても仕方

- ないと思う」との発言あり

- 診断

- 起立性調節障害に伴う頭痛、運動不足による体力低下

- 治療方針

- 患者・家族への十分な説明と質疑応答で安心を導く。
良くなってきつつあるのでとりわけ、ワクチンを接種したことのメリットの可能性も理解してもらおう。
- 薬物療法は漢方のみ
- これ以上の検査は原則として行わない
既に十分検査されており検査をしたからよくなるものではないから
- 実は母、姉も片頭痛があり因果関係があろうとなかろうと頭痛について、うまくコントロールできるようになってきていることを説明
- 生活パターン改善、体づくりが必須であることを説明

当センター初診から現在

- 当センター初診一か月
 - 朝目が覚めるようになった
 - 服薬はきちんとできるようになった
 - 時々行く高校の部活は楽しい
- 半年後
 - 頭痛はある時もあるが、仕事にはなんとか行けており、責任を持たされるようなこともあり、立ち位置ができた
 - カラオケも少しだがすることが出来るようになった

本人家族の現在の訴え

- 母親は、今回のエピソードがなければこの子の人生は違っていたという思いもあり、因果関係について気にしている
- 本人は、今できることをしていくが、今の仕事はちょっときついので別の仕事に代わりたいが責任があるので代われない何か資格を取って一人前になりたいとの思い強い

考察等

- 医療者側の連携が重要であり、診療科をまたいでチームで患者を守っている体制が安心感を与えていると考えられた
- 母親も片頭痛で苦しんだ時期があったが改善したという経過があること、本人の症状の改善もあることから安心しつつある
- 患者・家族との十分なコミュニケーションが有効であり、コントロールできつつある